

イラクの地理

高橋龍範 宇都宮大学農学部生物生産科学科1年

1.イラクの地理

領土:437072 平方キロメートル(日本の約 1.15 倍)

砂漠気候、夏は日中 40~50 度になる。

主要作物:小麦、大麦、米、野菜、ナツメやし、綿、羊毛、家畜一牛羊

産業:石油生産と精製、化学薬品、織物、建材、食品加工

輸出相手国:アメリカ、ブラジル、トルコ、日本、オランダ、スペイン(1990)

輸入相手国:ドイツ、アメリカ、トルコ、フランス、イギリス(1990)

北東部は山岳部(最高点 3600m)で冬は寒く時には豪雪となる。国土の大部分は広大な平野でほとんどが砂漠になっている。南部は河川の氾濫により湿地となっている。早春に山岳部の雪がとけ洪水が起こることもある。国土の 11.9%が耕地、0.8%が植林地となっている。耕地のうち 62%が灌漑を行っている。天然資源はリン酸、硫黄、天然ガス、石油がある。砂塵嵐、砂暴風、洪水の自然災害がある。環境問題は大気および水の汚染、土壌侵食(塩害)、砂漠化など。

2.イラクの民族・宗教

アラブ人 75~80%、クルド人 15~20%、その他(トルクメン人、アッシリア人など)5%

イスラム教 97%(シーア派 60~65%、スンニ派 32~37%)、キリスト教ほか 3%

公用語:アラビア語

使用言語:クルド語、アッシリア語、アルメニア語など

上に書いたようにイラクにはさまざまな民族、部族、宗教が存在する。これが国民統合や政治的安定性の大きな阻害要因となっている。

イラクの領土は 1920 年のサンレモ会議でオスマン領分割が協議され、イギリスの委任統治領として設定された。はじめ「イラク」は南部一部だけを指していたが、イギリスが委任統治領にペルシャ湾岸を入れたかったために、バグダッドを中心とするスンニ派地域に南部のシーア派地域を加え、さらに北部クルド人地域を加えたために現在のように複雑になった。

イギリスは統治領運営にあたり不安定な国内を軍力で対処するために徴兵制によるイラク軍を創設した。このイラク軍は 1932 年イラク王国独立時、1958 年の共和制移行時もそのまま引き継がれた。国内の治安維持など機能してきた一方で軍が政治関与することがおおくなり、クーデターが起こるなどして軍事政権が維持されてきた。

軍はスンニ派で構成され、シーア派住民やクルド人は抑圧されることになる。反乱が散発してもイラク政府の支配下が続く、北部ではクルド人の自治が行われている。イラク国内で兵力を持つ反体制勢力はクルド人のみで、北部の自治地域の西側をクルド民主党、東側をクルド愛国同盟が支配していた。

シーア派住民はイラン同盟以後、イラン政府に支持や共鳴を示していた。その例としてイラク・イスラム革命最高評議会があげられる。

2-1.シーア派

シーア派は内部の派閥対立あり。

シーア派の一部の指導者はイラン政府の保守派とつながっている。また彼らはイスラム政府の樹立を希望している。

地域、階級、部族主義アイデンティティーの濃淡、民族性などバラバラでクルド人トルクメン人もいる。部族のアイデンティティーを意識しない教徒から重要視する教徒までいる。部族間の報復合戦による殺し合いが正義を実現する野蛮な方法として実行されることもしばしばある。

シーア派:イスラムの指導者は預言者ムハンマドの末裔であるべき。スンニ派:合意によって選ばれるべき。

サダム・フセイン期のイラクはスンニ派、特にティクリート出身のスンニ派が仕切っていた。シーア派は抑圧の対象。

シーア派は過去、現在のアヤトラ(高位聖職者)の示した思想の違いで派閥ができています。派閥間での違いは政治と宗教の関係について。現在3,4の派閥がある。ほとんどが反米的。なぜなら、シーア派には強固な反帝国主義をとる人が多い。外国、キリスト教国に支配されるのではなく、自らの手でイラクを統治することを望んでいる。現最高指導者サイード・アリ・シスタニは宗教と国は区別すべきで世界の出来事からは遠ざかるべきと説いている。

2-2 クルド人問題

ペルシャ語系のクルド語を母語とする民族。クルド語には方言が多く異なる文字を使うこともある。現在人口は2500~3000万人と推定される。一番多いのはトルコ。羊の放牧と農業をして半遊牧生活をする。

多くはスンニ派で、シーア派は少数派となっている。

ペルシャ圏、アラブ圏、トルコ圏のぶつかる場所に位置していたため、かつて各王朝から一定の集団と認められ自治を認められてきた。一方王朝間の攻防の舞台となることもあった。

第二次世界大戦直後の1946年、ソ連占領下でクルディスタン人民共和国が独立¹したが、1年後ソ連の撤退により崩壊した。このときの大統領がイラン・クルド民主党の創始者であり、軍事指導者が後にクルド民主党党首となった。他にクルド労働党、クルド愛国同盟などがあるが、武装・非武装の組織がさまざまある。相互に対立していて民族運動としての団結は弱い。

サダム・フセインの迫害を受けてきた。特に、イラン・イラク戦争では、敵国に荷担したという疑いから、化学兵器攻撃を受けた。

3.農業について

3-1 戦争

2003年の国連調査によると、2003年の春穀物の3分の1が戦争被害を免れた。しかし春穀物は年間収穫量の30%で、70%を占める冬穀物の被害は予想できないとのこと。

北部の穀物栽培地域の大部分は攻撃を免れているが、中央部、南部の穀物地帯は甚大な被害を受けている。北部とは異なり灌漑に依存への依存が高く、設備稼動に必要な電力や燃料に戦争の影響がでているため。

3-2 干ばつ

1999年6月に中東でおきた干ばつの影響は大きく、国連査察団によれば今世紀最悪の干ばつだそうだ。そのうえ様々な伝染病の被害を受けた。たとえば、牛・羊に口蹄疫が流行り100万頭以上死んだといわれる。

i

i [口蹄疫](#):

¹塩害:砂漠などの乾燥地域で土壌に水をまくと蒸発する。そのときに地中の塩分が地表まで引っ張られる。これによって塩分濃度が高くなって植物が育たなくなる。砂漠化する第一段階と考えられる。